

宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

平成21年1月～3月期

目 次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックに対する本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

平成21年4月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成 21 年 1 月～3 月期

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内 10 商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市、大河原町、多賀城・七ヶ浜、くろかわ、加美
美里町、若柳金成、みやぎ北上、石巻かほく、本吉唐桑
- (2) 対象企業数 1 5 0 企業
- (3) 回答企業数 1 4 6 企業

2. 調査対象期間

平成 21 年 1 月～3 月期を対象として、調査時点は平成 21 年 3 月 1 日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	3 5
建 設 業	2 5
小 売 業	4 6
サービス業	4 0
合 計	1 4 6

5. そ の 他

本報告書中の D I とは、デフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転・長期化)企業割合と減少(低下・悪化・短期化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

県下商工会地区における今期(平成21年1月～3月)の景況調査結果から、産業全体の業況(自社)DIは、△58.9(前期△51.3)であり、主要項目DIは、売上額が△48.2(前期△47.3)、採算が△62.6(同△59.7)、資金繰りは△50.3(同△43.0)といずれも下降した。

業種別では、製造業の下降幅が大きく、来期見通しも大幅な下降予測となった。

経営上の問題として、共通して「需要の停滞」が主流で、その回答も増加傾向を示している。

一方、来期見通しについては、各業種とも悪化予想回答が増加、全体に厳しい予測となった。特に製造業においては、売上額、採算ともマイナス値が70台に拡大、他業種も同様に悪化予測が多い。

別表1～4に見るとおり、全業種とも主要項目のマイナス値は大きく、更に、来期の見通しを含め、全体として厳しい景況認識が示された。

(1) 主要景況項目のあらまし

① 売上額(完成工事額)の状況

表-1の通り、製造業が前期比27.3ポイントの大幅下降、建設業、小売業、サービス業とも若干の改善あったが、概ね前期並みの推移といえる。

なお、業種ごとの回答内容については、製造業の「減少・悪化」回答が全体の67.7%(前期45.7%)と増加、サービス業が72.5%(同74.4%)、小売業が70.5%(同73.4%)として依然高率を示した。

② 採算の状況

小売業を除き、製造業、建設業、サービス業が悪化。その下降幅は、製造業が14.3ポイントと大きく、建設業が8.0ポイント下降した。

一方、小売業の上昇幅は6.8ポイントで2期連続の改善となった。

③ 設備投資の状況

前期に引き続き全業種が、新規設備投資を実施した。

製造業が全体の14.3%(前期11.4%)、サービス業が12.2%(前期7.0%)とそれぞれ前期を上回った。来期の設備計画も、全業種に設備計画あるが、その割合は、今期同様全体として低調なものとなっている。

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

全国、東北および宮城の調査結果から、表一1のとおり、売上額D Iは、製造業が全地域で下降、特に、宮城は27.3ポイント、東北が24.4ポイント、全国が18.3ポイントといずれも下降幅が大きい、特に、全国、宮城とも経営上の問題点として「需要の停滞」が突出している状況でもあり、厳しい経営環境がうかがわれる。

なお、全国、東北は、全業種が下降、特に、小売業の下降幅がともに大きいものとなった。

表一1 売上額（完成工事額）の状況（前年同期比・D I値）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 40.1	△ 58.4	△ 33.9	△ 58.3	△ 22.8	△ 50.1
建 設 業	△ 43.7	△ 48.9	△ 37.0	△ 43.2	△ 30.4	△ 24.0
小 売 業	△ 49.5	△ 62.7	△ 51.0	△ 62.7	△ 60.1	△ 54.6
サービス業	△ 47.0	△ 56.3	△ 55.4	△ 57.0	△ 62.8	△ 55.0

② 採 算

表一2のとおり、宮城の小売業に若干の改善あったが、全国、東北は、全業種が下降した。特に、製造業の下降幅が、売上額（表一1）同様大きいものとなった。

表一2 採算の状況（前年同期比・D I値）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 49.2	△ 61.2	△ 53.2	△ 65.6	△ 54.2	△ 68.5
建 設 業	△ 58.4	△ 60.9	△ 55.8	△ 67.5	△ 56.0	△ 64.0
小 売 業	△ 53.7	△ 58.0	△ 57.6	△ 62.7	△ 53.4	△ 46.6
サービス業	△ 53.8	△ 55.2	△ 62.5	△ 62.9	△ 72.0	△ 73.1

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

売上額の来期見通しは、全業種とも厳しい予測となった。特に、製造業、小売業のマイナス超幅が拡大した。

採算は、製造業、小売業が大幅下降、他は若干ながら改善予測となった。

来期の売上額予測について、今期に比較して、建設業が 36.0 ポイント、製造業が 27.0 ポイントの大幅下降予測であり、共に厳しいものとなった。

なお、来期の売上額で「低下・悪化」の予想回答は、製造業が全体の 77.1%（前期 41.2%）、サービス業が 73.1%（同 65.1%）の結果となった。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

売上額は、表－3の通り、全国のサービス業のみ今期並の予測で、宮城を含め他はすべてが下降予測となった。特に宮城は、建設業を初めとして、全体的に厳しい予測となった。

一方、採算は表－4の通り、全国、宮城とも大きな変化なく、各業種とも概ね横這い推移と予測しているが、宮城の製造業、サービス業のマイナス値は大きい。

表－3 売上額（完成工事額）来期見通し (D I 値)

区分 業種	全 国		宮 城	
	今 期	来 期	今 期	来 期
製 造 業	△ 58.4	△ 60.0	△ 50.1	△ 77.1
建 設 業	△ 48.9	△ 60.5	△ 24.0	△ 60.0
小 売 業	△ 62.7	△ 64.0	△ 54.6	△ 72.0
サービス業	△ 56.3	△ 56.2	△ 55.0	△ 68.2

表－4 採算来期見通し (D I 値)

区分 業種	全 国		宮 城	
	今 期	来 期	今 期	来 期
製 造 業	△ 61.2	△ 59.7	△ 68.5	△ 71.3
建 設 業	△ 60.9	△ 61.1	△ 64.0	△ 60.0
小 売 業	△ 58.0	△ 57.0	△ 46.6	△ 57.1
サービス業	△ 55.2	△ 54.2	△ 73.1	△ 70.8

2. 県下産業別の景況

(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額DIは、前期比27.3ポイント、採算は14.0ポイント、資金繰り15.7ポイントと主要項目全てが大幅に下降した。

売上が「悪化」したとの回答が全体の67.7%（前期45.7%）を占め、受注環境の厳しさが窺える。

一方、来期の見通しは、売上額、採算、資金繰り共、更に悪化予測となった。

経営上の問題点として「需要の停滞」が、突出、依然環境の厳しさが表面化された。

新規設備実施状況は、今期は全体の14.3%（前期11.4%）であり、来期の設備を計画している企業は、全体の11.4%を占めた。

② 主要景況項目別状況

(a) 売上(加工)額

前年同期比で「増加・上昇」と回答した企業は、全体の17.6%で前期比5.3ポイント減少した。

一方、「減少・悪化」と回答した企業は、前期比22.0ポイント増加の67.7%となり、売上額DI△50.1は前期比27.3ポイントと大幅に下降した。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)

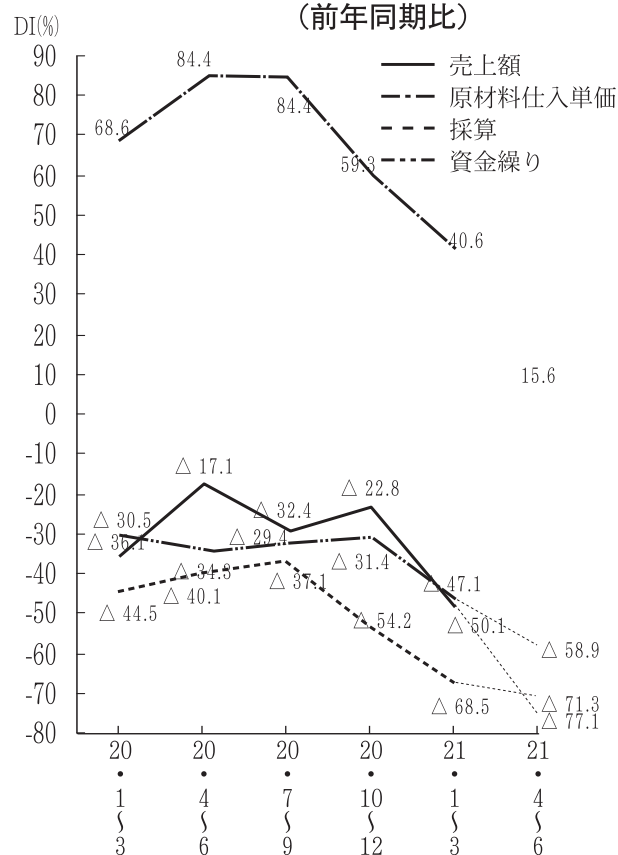
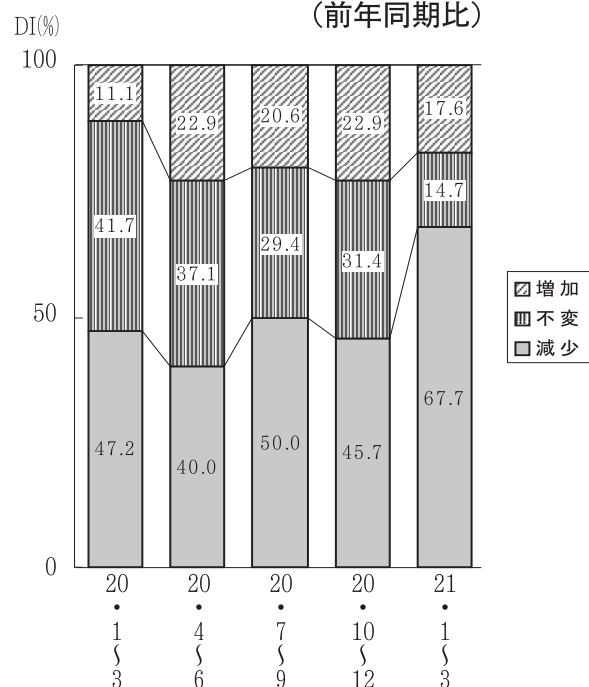


図1-2 売上(加工)額の状況
(前年同期比)



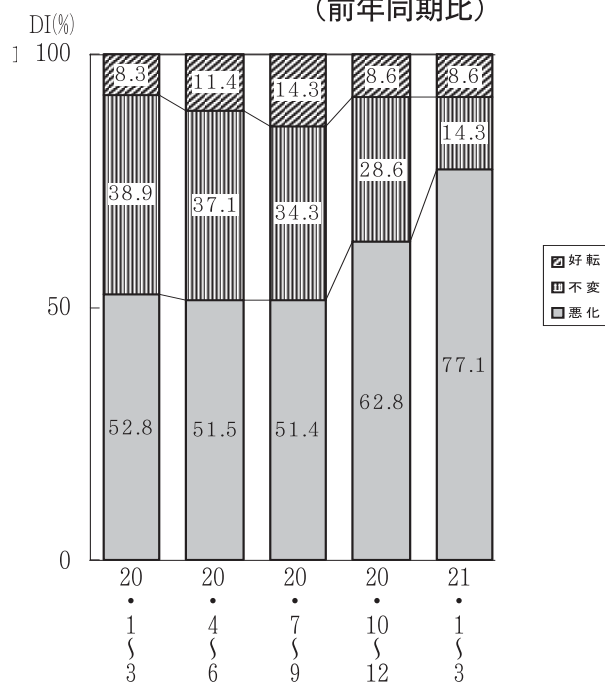
(b) 採 算

前年同期比で「増加・上昇」と回答した企業は全体の 8.6%で前期と同率であった。

一方、「減少・悪化」と回答した企業は 77.1%(前期 62.8%)である

その結果、採算DIは△68.5(前期△54.2)と売上額同様大幅に悪化した。

図 1 - 3 採算の状況
(前年同期比)



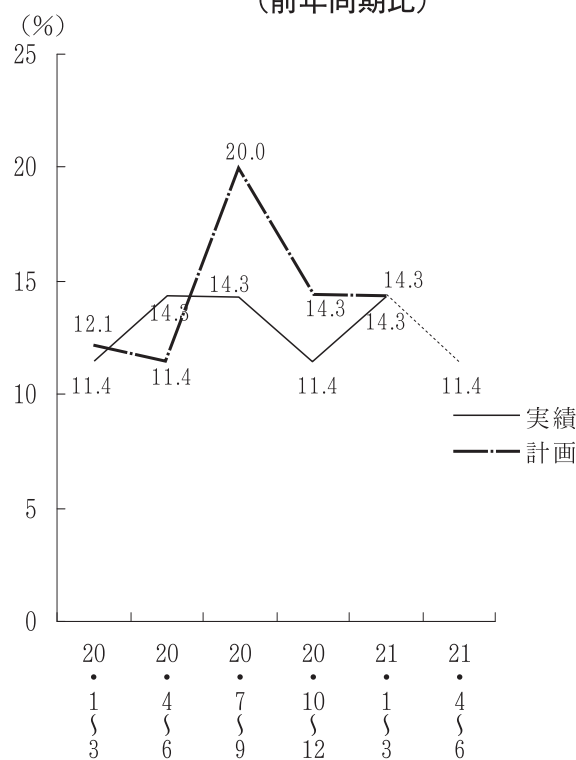
(c) 設 備 投 資

今期の新規設備実施企業割合は、全体の 14.3%で、前期に比較して若干増加した。

その設備内容は、工場設備、生産設備、車両運搬具、OA機器等であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の 11.4%で、その設備内容は、今期同様のものとなっている。

図 1 - 4 設備投資の状況
(前年同期比)



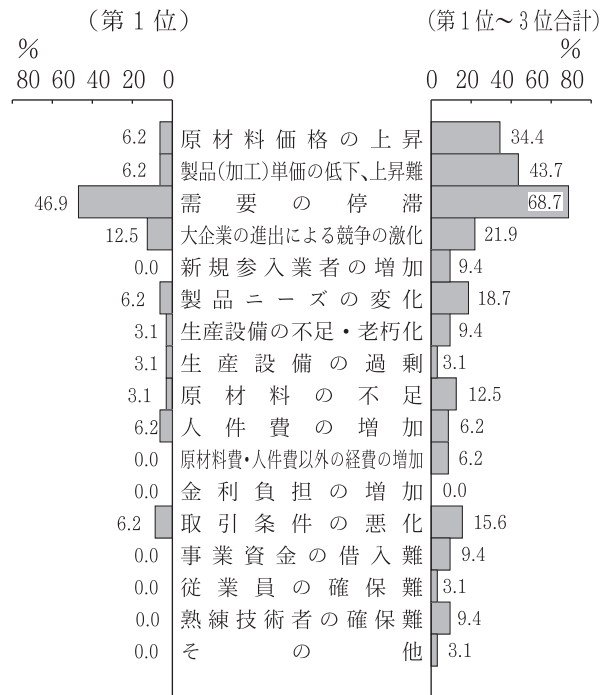
(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は、「需要の停滞」が全体の46.9%、次いで「大企業進出による競争の激化」が12.5%であった。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」が68.7%、(複数回答以下同じ)「製品単価の低下・上昇難」43.7%、「原材料価格の上昇」が34.4%と続いている。

今期は、「需要の停滞」が大幅に増加した。

図1-5 経営上の問題点



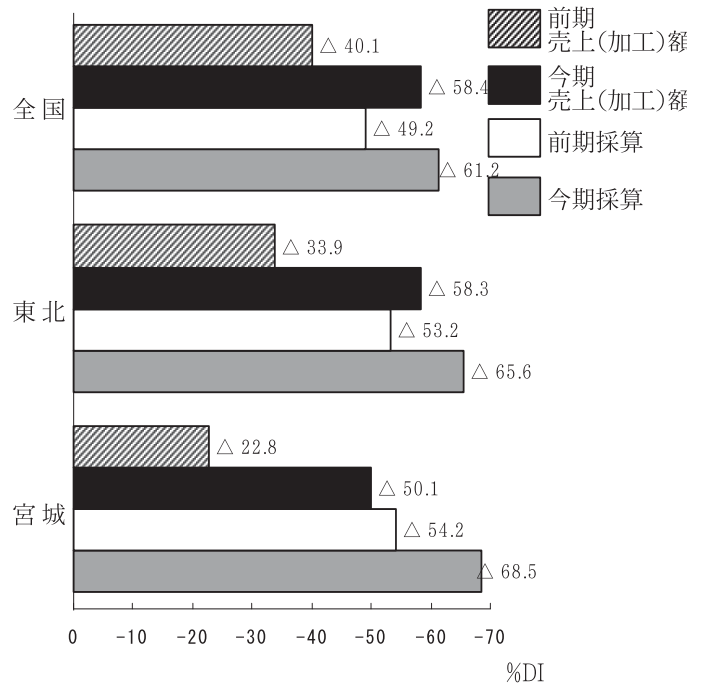
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

売上額は、全国、東北、宮城とも悪化、東北、宮城の下降幅は、前期比20ポイント超と大きい。

一方、採算は、売上額同様、全地域が下降、いずれも10ポイントを超える下降幅である。

なお、業況(自社)DIは、全国が△60.0(前期△46.6)、宮城は△55.9(前期△42.9)であり、自社の業況についても全国、宮城とも厳しい認識を示している。

図1-6 全国東北宮城売上(加工)額・採算比較



(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

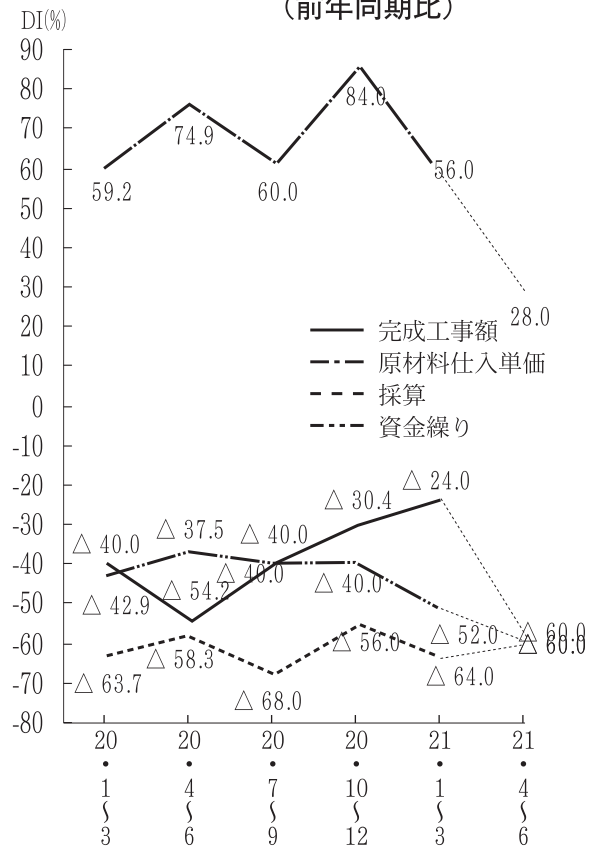
完成工事額は、6.4ポイント上昇、採算は8.0ポイント、資金繰りは、12.0ポイント下降。

経営上の問題点として、「民間需要の停滞」「請負単価の低下・上昇難」「官公需要の停滞」が依然高率を占めている。

なお、業況DI Δ 56.0(前期 Δ 48.0)と悪化、自社の業況認識については依然厳しい。

来期見通しについては、完成工事高は、大幅悪化予想。採算は、ほぼ今期並みの予想である。

図2-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



② 主要景況項目別状況

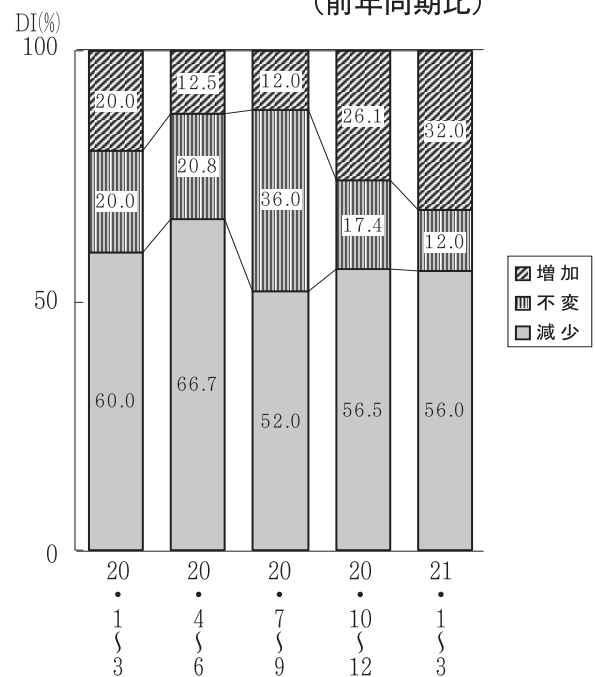
(a) 完成工事額

前年同期比で「増加・上昇」回答は全体の32.0%(前期26.1%)であった。

一方、「減少・悪化」と回答した企業は、前期並みの、56.0%であり、その結果、完成工事高DIは Δ 24.0で前期比6.4ポイント改善、3期連続の改善となった。

来期の見通しは、36.0ポイント下降と厳しい予測となった。

図2-2 完成工事額の状況
(前年同期比)



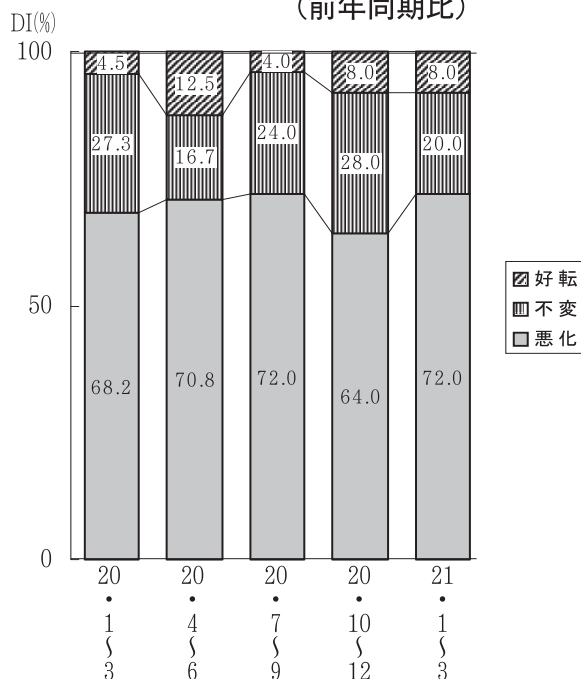
(b) 採算

前年同期比「好転・上昇」の回答は、前期同率の8.0%であった。

一方、「減少・悪化」と回答した企業は、前期比8.0ポイント増加の72.0%で、採算DIは、前期比8.0ポイント下降して△64.0となった。

来期の採算見通しは、概ね今期並みの予測となった。

図2-3 採算の状況
(前年同期比)

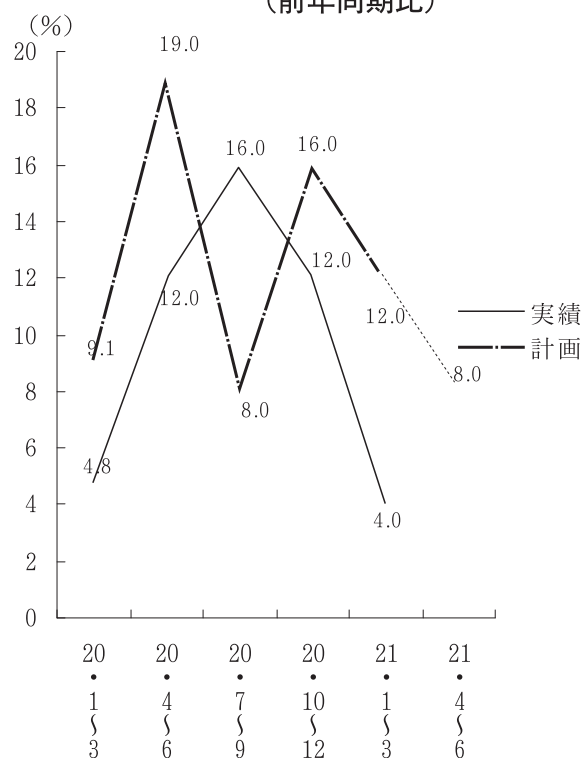


(c) 設備投資

今期、新規設備を実施した企業は、全体の4.0%で、その設備内容は、OA機器のみである。

来期に設備計画している企業は、全体の8.0%、その設備内容は、建物、機械設備、車両運搬具等を計画している。

図2-4 設備投資の状況
(前年同期比)



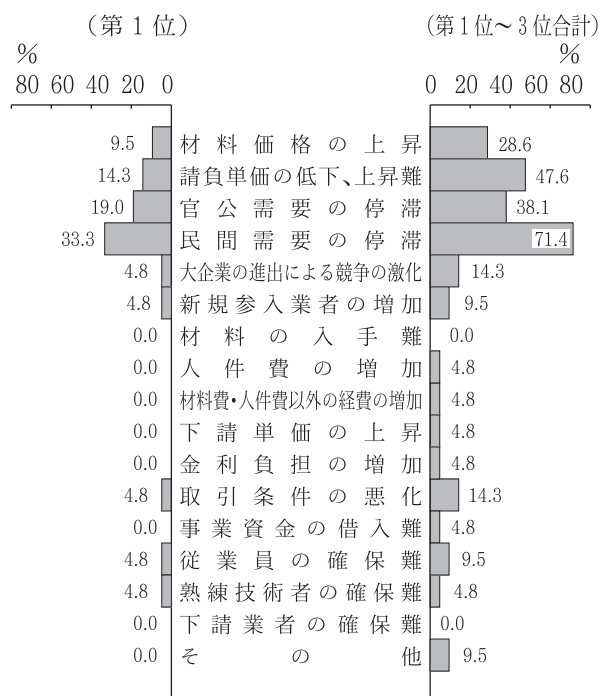
(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「民間需要の停滞」33.3%、「官公需要の停滞」19.0%の結果となった。

重要度第1位から第3位合計では「民間需要の停滞」が71.4%（複数回答以下同じ）「請負単価の低下・上昇難」が47.6%「官公需要の停滞」が38.1%、と続いた。

経営上の問題として、今期は、特に「需要の停滞」が大幅に増加した。

図2-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

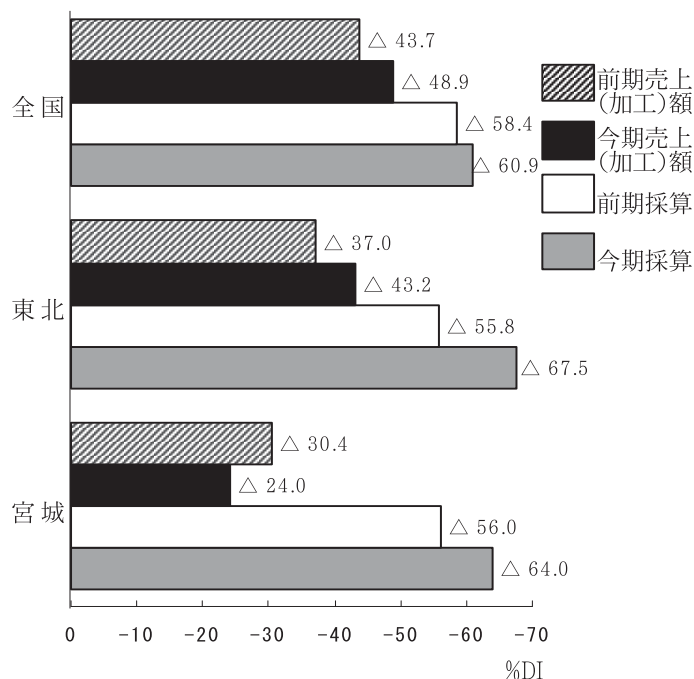
売上額(完成工事額)は、全国、東北が下降、宮城は上昇した。

採算は、全地域が下降、特に、東北の10ポイント超の下降が大きい。

来期見通しについては、売上額(完成工事高)は、全国、宮城ともに大幅に悪化予想、特に、宮城は、厳しい予測となった。

採算は、全国、宮城とも概ね今期並みの予測を示した。

図2-6 全国東北宮城売上完成工事額・採算比較



(3) 小売業の動向

①主要景況項目から見たあらまし

売上額は、前期比 5.5 ポイント、採算は 6.8 ポイント上昇した。

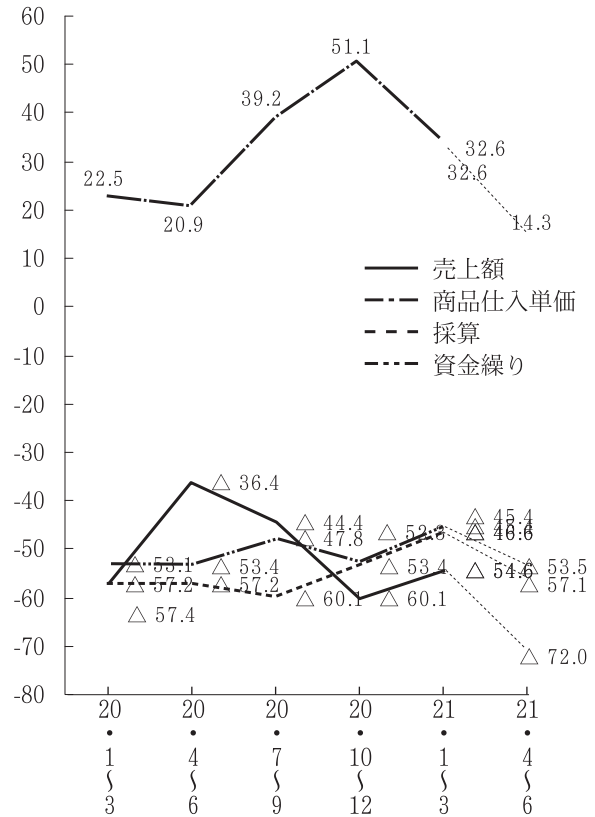
「客数」は好転したが、反面「客単価」が悪化、最近の消費動向の反映とも考えられる。

自社の業況D I は△56.0 (前期△50.0) と下降した。

資金繰り及び借入難度は、長・短期資金借入(含・手形割引)については若干改善した。

来期の見通しは、売上額、採算、資金繰り共に悪化、特に、売上額のD I △72.0 と見通しは厳しいものがある。

図 3 - 1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



② 主要景況項目別状況

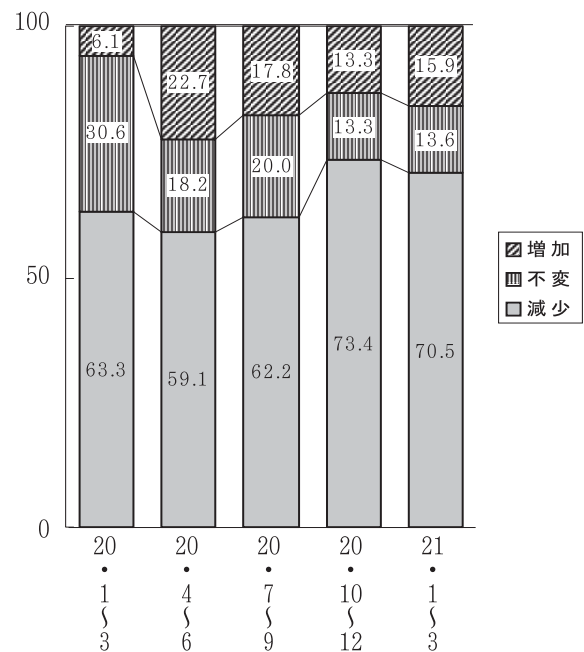
(a) 売上額

前年同期比で「増加・上昇」と回答した企業は全体の 15.9% (前期 13.3%) と増加した。

一方、「減少・悪化」の回答は全体の 70.5% (前期 73.4%) と高率ながら若干減少した。

その結果、売上額D I は前期比 5.5 ポイント改善したがマイナス値は依然大きい。

図 3 - 2 売上額の状況
(前年同期比)



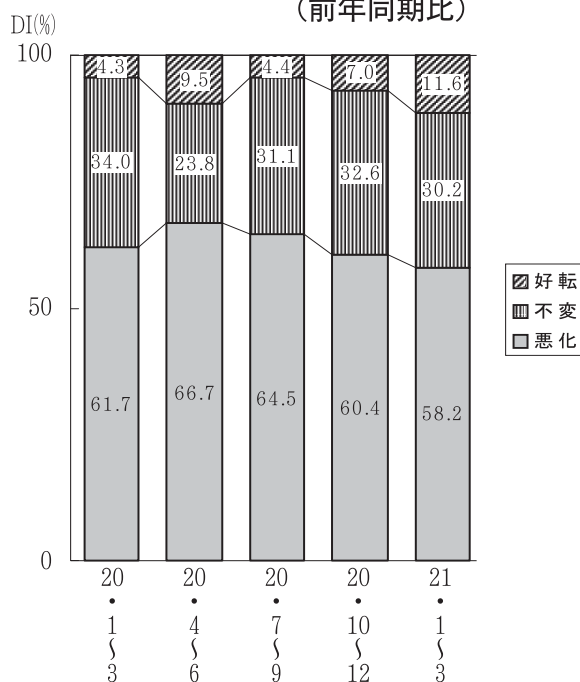
(b) 採算

「好転・上昇」と回答した企業は、全体の11.6%で前期比4.6ポイント増加。

一方、「悪化・低下」の回答は全体の58.2%で前期比2.2ポイント減少した。

その結果、採算DIは、△46.6となり、前期比6.8ポイント好転、4業種中唯一、売上額、採算、資金繰りの主要項目全てが若干ながら改善した。

図3-3 採算の状況
(前年同期比)

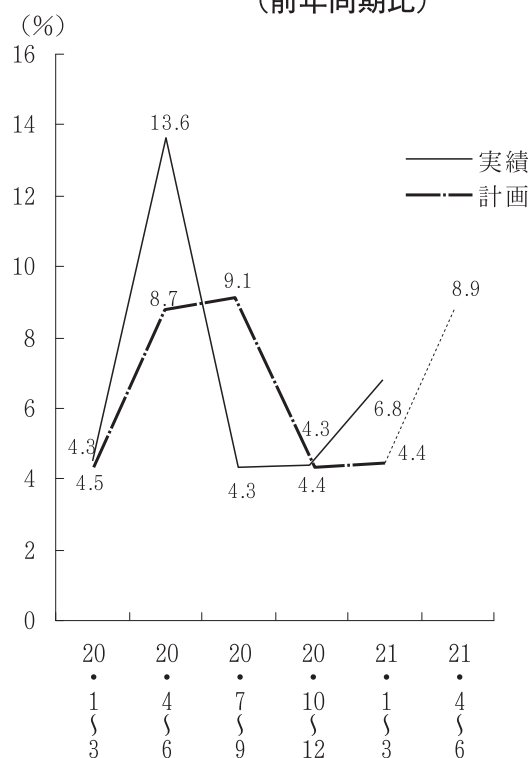


(c) 設備投資

今期の設備実施企業割合は、全体の6.8%（前期4.4%）とほぼ横這い。その内容は、店舗、販売設備等である。

来期に設備計画している企業は、全体の8.9%で、その内容は、販売設備、車両運搬具、OA等を計画している。

図3-4 設備投資の状況
(前年同期比)

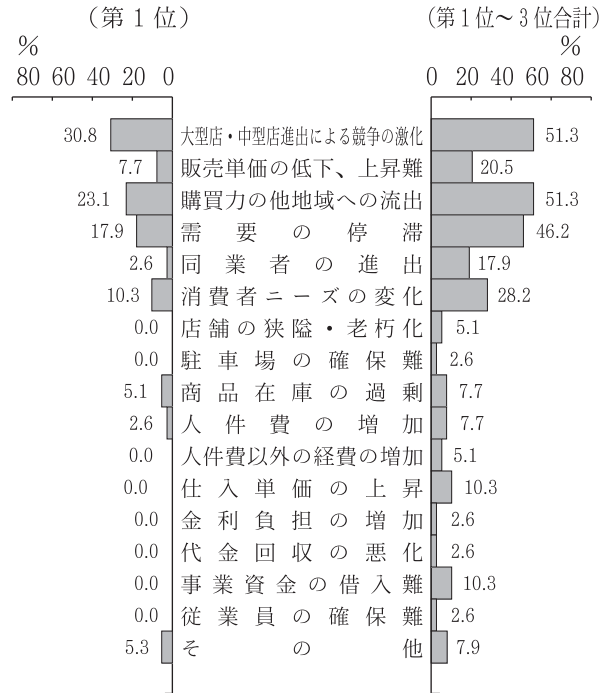


(d) 経営上の問題点

重要度第1位では、前期同様「大型店・中型店の進出による競争の激化」が30.8%、次いで、「購買力の他地域への流出」が23.1%、「需要の停滞」17.9%と続いている。

重要度第1位から第3位合計は「購買力の他地域への流出」、「大型店・中型店進出による競争の激化」が51.3%（複数回答以下同じ）、「需要の停滞」が46.2%、「消費者ニーズの変化」が28.2%の結果となった。小売業については、競合要因が依然主流を占めている。

図3-5 経営上の問題点



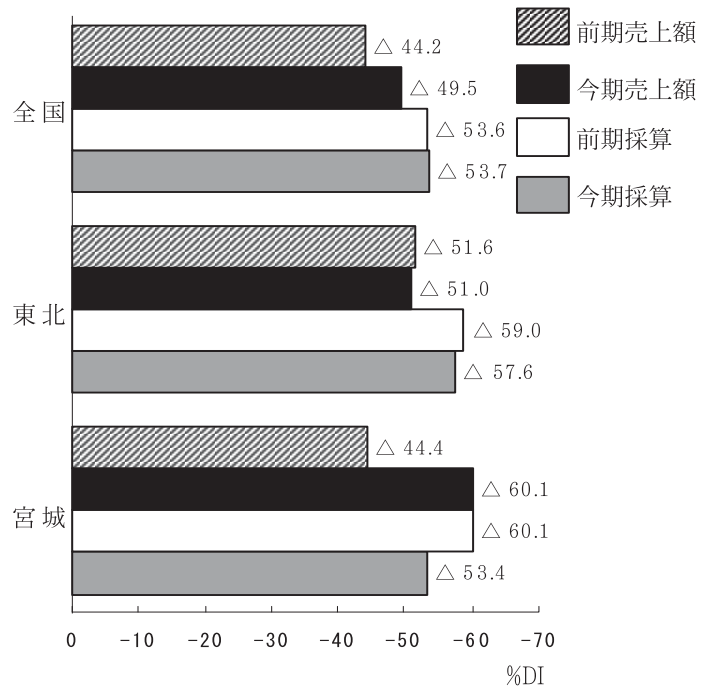
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

売上額は、全国、東北が下降、宮城は改善した。全国、東北は共に10.0ポイント超の下降となった。

採算は、売上額同様、全国、東北が悪化、宮城は改善した。

一方、業況(自社)DIは、全国が△58.7(前期△54.6)、宮城は△56.0(前期△50.0)と下降、いずれも、自社の業況認識については、厳しさが示された。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較



(4) サービス業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額は、前期比 7.8 ポイント上昇、採算は、ほぼ前期並みの推移であった。

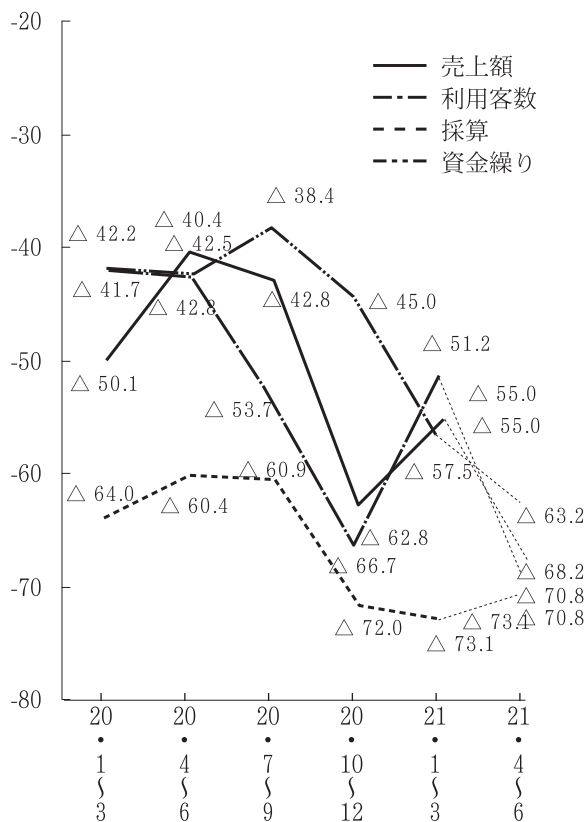
資金繰りは 12.5 ポイントと大幅悪化、長・短資金借り入れ難度についても下降した。

一方、客単価は悪化、利用客数が改善、小売業に類似した結果となった。

業況（自社）DI $\Delta 66.6$ （前期 $\Delta 62.0$ ）で厳しい認識が示され、3期連続の下降である。

来期見通しについては、売上額、資金繰りが厳しく、採算は、今期並みの予測となった。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



② 主要景況項目別状況

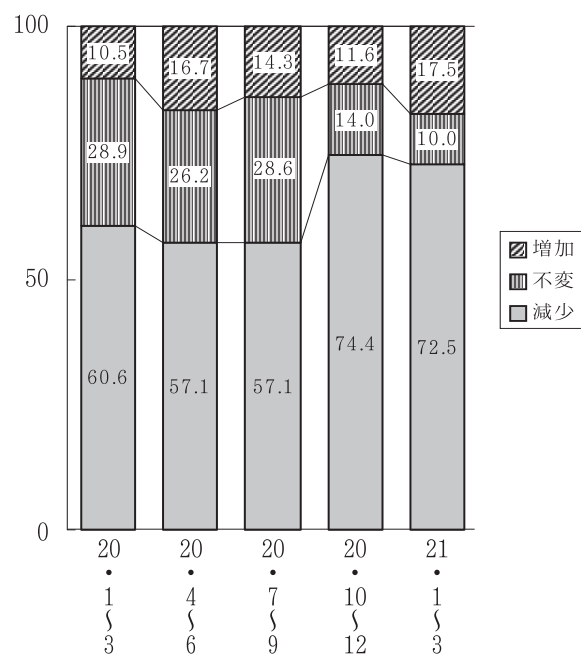
(a) 売上額

前年同期比で「増加・上昇」の回答は、5.9 ポイント増加の 17.5%である。

一方、「減少・悪化」の回答は、全体の 72.5%となり、前期比 1.9 ポイント減少した。

その結果、売上額DIは、 $\Delta 55.0$ となり、前期比 7.8 ポイント改善した。

図4-2 売上（収入）額の状況
(前年同期比)



(b) 採 算

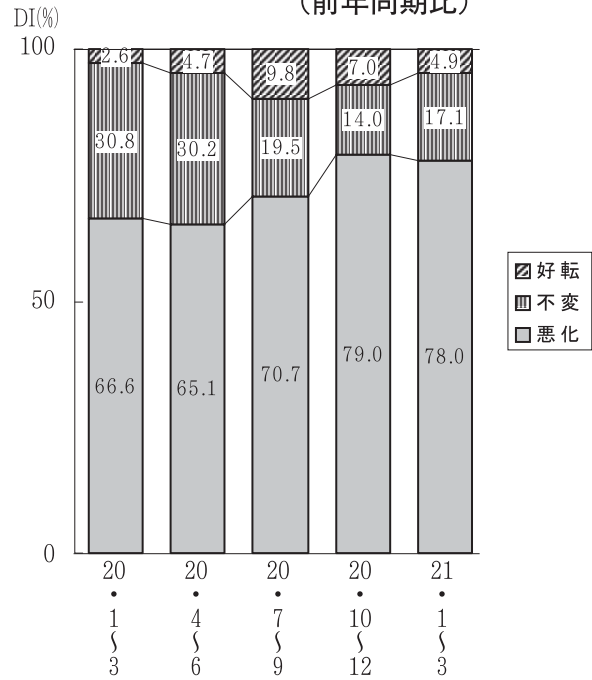
「上昇・好転」と回答した企業は、全体の4.9%（前期7.0%）であった。

一方、「低下・悪化」の回答企業は、全体の78.0%であり、売上額同様、かなりの高率となった。

その結果、採算D Iは△73.1となり、前期から1.1ポイント下降した。

売上額、採算とも厳しい結果となった。

図4-3 採算の状況
(前年同期比)

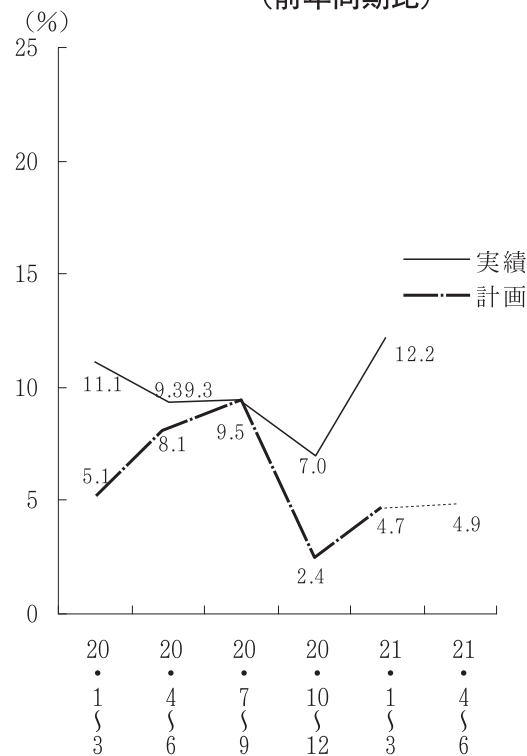


(c) 設 備 投 資

今期、設備を実施した企業は、全体の12.2%（前期7.0%）であった。その設備内容は、サービス設備、車両運搬具等である。

来期に設備計画している企業は、全体の4.9%であり、その内容は、サービス設備等を計画している。

図4-4 設備投資の状況
(前年同期比)



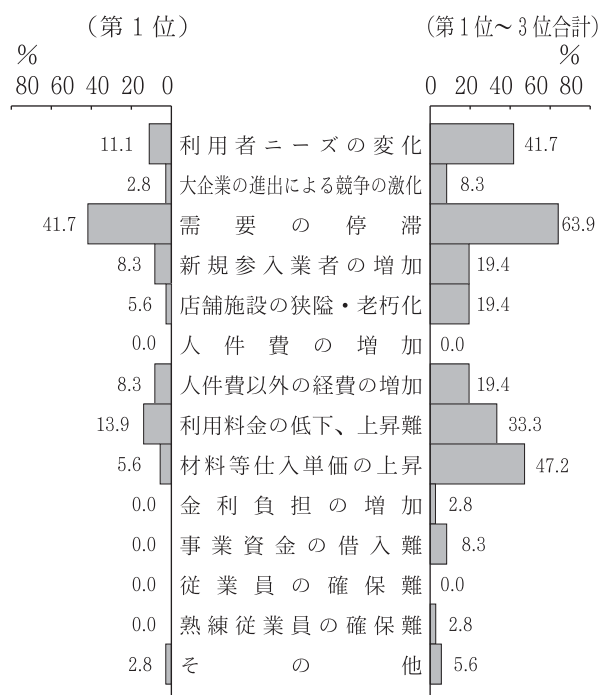
(d) 経営上の問題点

重要度第1位では、「需要の停滞」が41.7%、「利用料金の低下・上昇難」が13.9%、「利用者ニーズの変化」11.1%、と続いている。

重要度第1位から第3位合計では「需要の停滞」が63.9%、(複数回答以下同じ)、「材料等仕入れ単価の上昇」が47.2%、「利用料金低下・上昇難」が41.7%の順となっている。

「需要の停滞」回答の高率が続いている。

図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

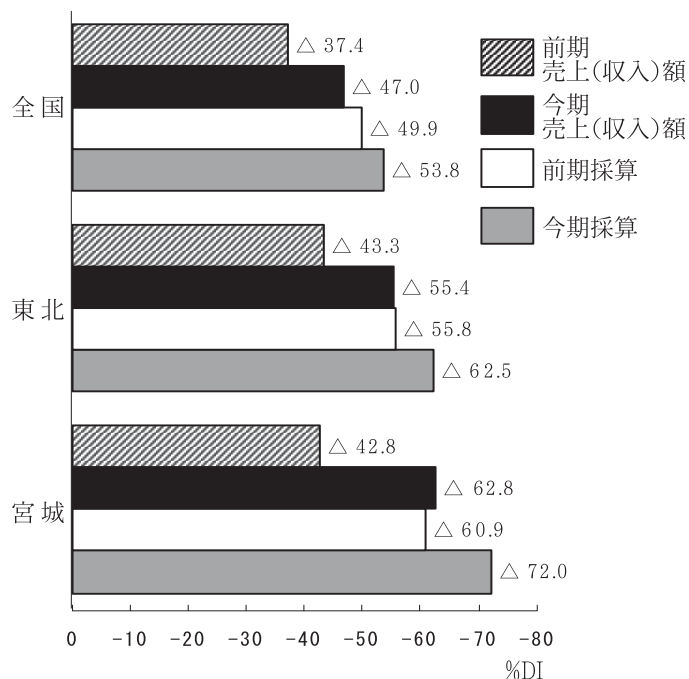
売上額は、全国、東北が下降、宮城は上昇した。全国の下降幅が9.3ポイントと大きい。

採算は、全国が下降、他は前期並みの推移。

資金繰りは全国、宮城とも悪化、宮城の12.5ポイント下降が大きい。

業況(自社)DIについては、全国が△56.1に対して、宮城は△66.6、であり、依然、厳しい景況認識が示された。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較





古紙配合率70%再生紙を使用しています